

St.Mary's College Campus Letter

# MADONNA

聖マリア学院大学キャンパスレター〔マドンナ〕

特集

日本看護学教育評価機構による  
分野別評価受審結果…評価基準「適合」と認定

Vol.

27

2024.3





# 日本看護学教育評価機構による 分野別評価受審結果・評価基準 「適合」と認定



看護学部長 日高 艶子

聖マリア学院のミッションに基づくケアの文化を創造する人材育成のための新カリキュラムに基づく看護学教育は、2022年4月から開始され、同年10月に日本看護学教育評価機構による分野別評価(看護学分野別評価)を受審し、2023年3月14日付けで評価基準「適合」と認定されました。認定期間は2023年4月1日から2030年の3月31日までの7年間です。

本稿では「MADONNA Vol.26」報告致しました掲載内容に加え、日本看護学評価機構による評価報告書から評価結果の内容を一部抜粋して以下にご報告を致します。



1. 聖マリア学院大学における看護学教育は、建学の精神に基づき教育目標と教育に関するポリシーに整合した看護学教育を行っている。

2. 教育課程は、理念・目標・ポリシーと一貫しており、学年進行に伴い専門性を高めていき順序的、体系的な編成となっている。

3. 建学の精神に基づく人間についての探求や尊厳・生命の尊重を涵養するための生命倫理教育、ロイ適応看護モデルに基づく看護を実践するための科目や国際看護を醸成するための科目を各年次に積み上げ式に配置しており、カトリック系大学の特色を有する教育課程であることが認められる。

4. 教育内容はDiploma Policy(ディプロマ・ポリシー)・卒業到達目標(Curriculum Policy(カリキュラム・ポリシー)に基づき設定され各科目の学修目標は具体的で、目標達成を測る評価方法との関連を認め、特に学生の能動的学修を促すための時間外ラボの設置や理念を共にする聖マリア病院との協働と連帯による教育体制は高く評価できる。

5. 入学者選抜は「Admission Policy(アドミッション・ポリシー)・入学者受入方針」に基づいて

行われ、入学試験の検証により改善が図られている。

これらの評価は、私どもが新カリキュラムをデザインし構築する過程において約2年間におよび建設的な対話を幾度となく繰り返した内容であり大変喜ばしい結果でした。しかしながら、新カリキュラムはスタートしたばかりでございませぬ。新カリキュラムに基づく本学の看護学教育の評価は、新カリキュラムの下で教育を受けた学生の皆さんが卒業後に自分自身が置かれた場所でカトリックの愛の精神に基づくケアリングの実践者として他者のために活動することで初めて評価できるのではないかと思います。

聖マリア学院大学の新カリキュラムに基づく看護学教育は始まったばかりです。聖マリア学院大学の看護学教育に関わってくださいる全ての皆様との協働・連帯を通して学生の皆さんと共に私どもも成熟していくことが出来るようにお祈りいたします。

## ■カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
人間の尊厳の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>■カトリックの愛の精神I</li> <li>■キリスト教概論I</li> <li>■哲学的人間論</li> <li>■生命倫理I</li> <li>■サービスマニエール</li> <li>■コミュニティ演習</li> <li>■芸術 ■心理学</li> <li>■人間関係論</li> <li>■社会学 ■教育原論</li> <li>■多様性の尊重</li> <li>■人間と法(日本国憲法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■カトリックの愛の精神II</li> <li>■キリスト教概論II</li> <li>■サービスマニエール*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生命倫理II</li> <li>■サービスマニエール*</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニティ・エンパワメント演習</li> <li>■サービスマニエール*</li> </ul>
生命・健康基盤分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生物学 ■生命化学</li> <li>■人体の構造と機能入門</li> <li>■人体の構造と機能I</li> <li>■人体の構造と機能II</li> <li>■感染・生体防御論I</li> <li>■感染・生体防御論II</li> <li>■栄養代謝学 ■公衆衛生学</li> <li>■病理学</li> <li>■コンピュータリテラシー</li> <li>■データヘルスサイエンス入門</li> <li>■データリテラシー基礎</li> <li>■疫学I ■体育理論</li> <li>■体育実技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■臨床栄養学</li> <li>■健康障害論I</li> <li>■健康障害論II</li> <li>■健康障害論III</li> <li>■健康障害論IV</li> <li>■薬理学</li> <li>■データリテラシー演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生活習慣と生体機能障害</li> <li>■プライマリ・ケアにおける多職種協働</li> <li>■人間工学</li> <li>■データ分析応用基礎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■疫学II</li> <li>■保健統計学</li> </ul>
ケアリング/科学的思考と問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護の基礎</li> <li>■看護理論学</li> <li>■ロイ適応看護モデル入門</li> <li>■臨床基礎技術論I</li> <li>■臨床基礎技術論II</li> <li>■スキルラボ基礎 レベル1</li> <li>■スキルラボ基礎 レベル2</li> <li>■成人・老年看護学概論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護診断学</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル1</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル2</li> <li>■成人・老年看護学ケア論I</li> <li>■成人・老年看護学ケア論II</li> <li>■成人・老年看護学ケア論III</li> <li>■適応促進基礎実習I</li> <li>■適応促進基礎実習II</li> <li>■母性看護学概論</li> <li>■母性看護学ケア論I</li> <li>■小児看護学概論</li> <li>■小児看護学ケア論I</li> <li>■がん看護学</li> <li>■リハビリテーション看護学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■成人・老年看護学ケア論IV</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル3</li> <li>■適応促進急性期実習</li> <li>■適応促進慢性期実習</li> <li>■母性看護学ケア論II</li> <li>■適応促進母性実習</li> <li>■小児看護学ケア論II</li> <li>■適応促進小児実習</li> <li>■エンドオブライフケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケアリングサイエンス</li> </ul>
ケアリング/科学的思考と問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護の基礎</li> <li>■看護理論学</li> <li>■ロイ適応看護モデル入門</li> <li>■臨床基礎技術論I</li> <li>■臨床基礎技術論II</li> <li>■スキルラボ基礎 レベル1</li> <li>■スキルラボ基礎 レベル2</li> <li>■成人・老年看護学概論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護診断学</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル1</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル2</li> <li>■成人・老年看護学ケア論I</li> <li>■成人・老年看護学ケア論II</li> <li>■成人・老年看護学ケア論III</li> <li>■適応促進基礎実習I</li> <li>■適応促進基礎実習II</li> <li>■母性看護学概論</li> <li>■母性看護学ケア論I</li> <li>■小児看護学概論</li> <li>■小児看護学ケア論I</li> <li>■がん看護学</li> <li>■リハビリテーション看護学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■成人・老年看護学ケア論IV</li> <li>■スキルラボ臨床 レベル3</li> <li>■適応促進急性期実習</li> <li>■適応促進慢性期実習</li> <li>■母性看護学ケア論II</li> <li>■適応促進母性実習</li> <li>■小児看護学ケア論II</li> <li>■適応促進小児実習</li> <li>■エンドオブライフケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケアリングサイエンス</li> </ul>
専門職者としての研鑽	<ul style="list-style-type: none"> <li>■専門職入門I</li> <li>■専門職入門II</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護研究I ■看護研究II</li> <li>■看護管理学</li> <li>■リーダーシップとデリゲーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護研究II</li> <li>■適応促進統合実習</li> </ul>
地域の人々と連帯・協働した看護の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>■災害看護論</li> <li>■保健医療福祉と看護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■精神看護学概論</li> <li>■精神看護学ケア論I</li> <li>■地域・在宅看護学概論</li> <li>■地域・在宅看護学ケア論</li> <li>■公衆衛生看護学概論</li> <li>■公衆衛生看護学管理論I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■精神看護学ケア論II</li> <li>■適応促進精神実習</li> <li>■地域・在宅スキルラボ</li> <li>■適応促進地域・在宅実習</li> <li>■個人・家族援助論I</li> <li>■集団・組織援助論I</li> <li>■産業保健 ■学校保健</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公衆衛生看護学管理論II</li> <li>■健康危機管理論</li> <li>■個人・家族援助論II</li> <li>■集団・組織援助論II</li> <li>■公衆衛生看護学活動展開論</li> <li>■公衆衛生看護学実習</li> <li>■保健医療福祉行政論</li> </ul>
グローバル・コミュニティ 適応看護システム分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地球環境と共生社会</li> <li>■日本語表現論 ■英語I</li> <li>■フランス語</li> <li>■スペイン語 ■韓国語</li> <li>■中国語</li> <li>■English Communication</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■英語II</li> <li>■国際保健論 ■国際看護論I</li> <li>■English Practice Abroad</li> <li>■Intercultural Awareness</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際看護論II</li> <li>■フィールドスタディI</li> <li>■Practical English Skills</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■フィールドスタディII</li> </ul>

\*サービスマニエールは通常1年科目であるが、科目の趣旨から、他学年での履修を許可する場合がある。

令和5年度 入学式

ご入学おめでとうございます

令和5年4月4日(火)、令和5年度入学式が挙行されました。今年度は、新入生および教職員に加え、ご家族の皆さまにも、列席いただき、看護学部看護学科110名、専攻科助産学専攻10名、大学院看護学研究科2名の新入生を迎えることができました。式典では、新入生代表として看護学部看護学科古賀ゆず葉さんより、入学の抱負が述べられました。



特待生表彰式

令和5年度 特待生表彰式を行いました

令和5年4月6日(木)、特待生表彰式が開催されました。看護学部看護学科1年生から4年生より、9名が特待生として選出されました。表彰式では、井手三郎学長より、一人ひとりに賞状が授与され、お祝いと激励のことが贈られました。特待生を代表し、看護学部4年生の原田璃奈さんより、「患者さんの背景を捉え、退院後の生活も見据えたケアを行える看護師になるため、残りの1年間、更に学びを深めていきたい」と抱負が述べられました。



特待生表彰者

- 4年：原田璃奈(八女工業高校卒)、柴田音羽(熊本マリスト学園高校卒)
- 3年：松田美里(福岡工業大学附属城東高校卒)、高尾萌花(鹿島高校卒)
- 2年：鷹尾心(八女学院高校卒)、鬼木愛奈(久留米信愛高校卒)
- 1年：菊次心美(明光学園高校卒)、宮田七海(筑紫中央高校卒)、西田圭伶(筑紫中央高校卒)



新入職員紹介

氏名 山口 智治 職位 講師(小児看護学領域)



病気や障がいのあること専門病院で、子どもだけでなく、子どもも含む“家族”全体を看護の対象とし、“家族”が力を発揮できるような看護について考えながら活動してきました。それらの活動を継続しつつ、これからは学生さんの力を見極めつつ、学生さんが力を育み発揮できるように、教育に臨みたいと思います。よろしくお願いいたします。

氏名 長友 奈央 職位 助教(基盤臨床・適応看護システム分野)



本学を卒業し10年目になります。病院の看護師、研究機関や市町村の保健師として勤務しておりました。原点に立ち返り、看護について思考を深めたいと思います。さらに、教育、研究、地域活動を通して、学生や地域の方々とともに、生きること、人間の尊厳、疾病の予防について考えたいと思います。よろしくお願いいたします。

氏名 飯田 知夏 職位 助手(基盤臨床・適応看護システム分野)



看護師として臨床経験後、母校である本学に着任いたしました。学生時代のような経験は、これからの人生において大きな糧になると思います。看護学について学びを深めるなかで、個々が持っている力を引き出し伸ばしていくことができるような教育を行っていきたく考えています。よろしくお願いいたします。

氏名 江内田 充 職位 助手(小児看護学領域)



令和5年3月まで聖マリア病院に勤務しておりました。母校である聖マリア学院大学に戻り、助手として着任できたことを嬉しく思います。臨床で得た経験や知識を生かし、学生に寄り添い、ともに看護についての学びを深めていければと思っています。

教育懇談会

教育懇談会を開催いたしました

9月2日(土)、在学生の“家族(希望者)”を対象とした、教育懇談会を開催いたしました。

全体説明会では、看護学部長及び教務部、学生部、学生支援センターより、本学の教育や学生支援についての取組を報告させていただきました。個別相談会では、個々の学生さんの修学状況について懇談をさせていただきました。



St. Mary's College

令和5年度 聖マリア学院大学 「教育懇談会」

① 全体説明会 13:00~14:25 (5号館2階521・522教室)

② 個別相談会 14:30~16:30 (7号館1階~3階)

R5 (2023) 9.2 於：聖マリア学院大学



召命のつどい

いのちの恵に感謝し  
看護の道を歩む

「いのちの奉仕者」と呼ばれている人々、特に4月に入学した看護学部1年生とともに、1年生のために祈るひとときを本学では「召命のつどい」と名付け、毎年10月に執り行っています。

10月14日(土)に看護学部1年生全員が揃い、自分がいたっている「いのち」の恵みに感謝するとともに、他者のために自分を生かす「カトリックの愛の精神」のもと看護の道を心新たに歩み始めました。



学院祭

多くの参加者で賑わったマリア祭

2023年11月11日(土)に第17回マリア祭(学院祭)を開催致しました。本年度は4年ぶりに一般の方にも開放し、多くの方に「ご来場いただきました」。

本年度は、SMILE BRINGS HAPPINESS「行こう、私たちの未来へ」をテーマに、フィールドスタディ(国際看護コース)や本学で受託しているJICA青年研修の研修生による報告会、各種出し物やゲーム、ネイル体験やBLS体験講座等さまざまなイベントを開催し、どのイベントも非常に賑わっていました。また、初めての試みとなるキッチンカーの出店(立花うどん様、からあげの感謝様、TOKAN(バー)様)もあり、3店舗とも大好評でした。

この日のために学修の合間を縫って準備に取り組んできた学院祭実行委員の方々のおかげで成功裏に終えることができました。大変お疲れさまでした。



クリスマスのつどい

一堂に会して祝う  
クリスマスのつどいを開催しました

聖マリア病院をはじめ聖マリアグループでは、合同でクリスマス祭として病棟でのキャンドルサービス等を行い、主の降誕のお祝いをしています。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で病棟内での実施が困難となっています。そのような状況の中、本学学生、教職員が集まり「クリスマスのつどい」を12月25日に開催しました。

まず、「聖マリア病院」はじめてのクリスマス」と題して今年開院70周年を迎えた聖マリア病院の開院初期からの合同クリスマスの歴史を井手信学院長

が語り聞かせてくださいました。聖書のイエスキリストの降誕の物語に続き、聖マリア病院チャプレンであるジュゼッペ神父様からのクリスマスメッセージを拝聴しました。そして一堂に会してのビンゴゲームで盛り上がり、ともにいることの喜びと感謝のうちにつどいは終了しました。

クリスマスの喜びは、インマヌエル、わたしたちとともにおられる神を迎えた喜びです。参加された方々を通して、世界中のすべての人にこの喜びが広がっていきますようお願いしております。



令和5年度 学位授与式

新たな門出  
それぞれのフィールドへ

令和6年3月2日(土)、令和5年度学位授与式が挙行されました。風も強く寒い日となりましたが、卒業生の門出を祝うように天気は晴れてくれました。

看護学部看護学科107名、専攻科助産学専攻10名、大学院看護学研究科2名が本学を旅立ち、新たなフィールドへと歩を踏み出しました。それぞれの場所で卒業生の皆さまが活躍されることを心より祈念致します。



国際交流

フィリピンスタディーフィリピン

令和5年度のフィリピンスタディーは、8月13日から24日まで看護学部3年生6名が参加して行いました。フィリピンでは、カノッサ修道女会はじめ、姉妹大学であるカノッサ大学看護学部の方々に協力いただき実習を行いました。

フィリピン最大の魅力は、経済的には決して豊かでない人が多いにも関わらず、人々がとても優しく、寛大であることだと思えます。フィリピンの方々への信仰しているカトリックの教えによるものなのかもしれませんが、訪問者を快く迎え入れる。そのために学生たちは、安心して実習や生活することが出来ます。

実習内容は、修道女会が運営する



カノッサ大学で



子どもたちへ健康教育「歯磨き指導」

クリニックで患者さんたちの健康状況を観察したり、地域の子どもたちに対し歯磨き指導の健康教育を行ったり、給食サービスのお手伝いを行いました。また、カノッサ大学訪問時には、病院見学や高齢者施設でのボランティア活動等、日本ではなかなか体験できないことを実践させていただきました。実習を通して学生たちは、フィリピンの方々の優しさと笑顔が学生たちを支え、学生たちに学ぶ機会を提供するために努力してくださる方々がいるというとてもたいせつなことに気が付きました。今後の学生生活や人生において、人の存在を尊重し、優しく笑顔で接することができる看護師になっていきたいとの感想を述べています。

国際交流

グローバルスタディーズコース語学研修

8月20日～9月3日の2週間、グローバルスタディーズコースの2年生6名が姉妹校のカノッサ大学(フィリピン サンパブロ市)で語学プログラムに参加しました。本学学生の6名はカノッサ大学の寮で宿泊し、平日は終日英語のコミュニケーションや文法を学修しました。現地では、修道院のシスター達やカノッサ大学の大学生だけでなく、小・中・高校生とも食事を共にしたり、放課後にはシスター達とスパーに買い物をして行ったりしてコミュニケーションスキルを身につけていきました。

最後の日には本学学生がフィリピンの先生・シスター・学生の前で英語のスピーチや祈り、英語の歌の歌唱などを行い、2週間の成果をグループ発表しました。この発表はお世話になった皆さんにとっても喜んでいただくことができました。プログラム終了後、観光地であるタガイタイやマニラ経由で帰国しました。学生の皆さんは、英語を学びながら貴重な経験をし、とても充実した2週間を過ごしました。



オープンキャンパス

2023年度夏のオープンキャンパスを開催いたしました！

2023年5月より、新型コロナウイルスが感染症法で5類の取り扱いとなり、対面での大学の活動が再開となりました。本学も、昨年春から、感染対策に配慮をしながら対面でのオープンキャンパスを再開させて頂いています。

高校生、保護者の皆様に直接お会いできる機会を大切に、本学の魅力を全力でお伝えしよう！と、学生・教職員一同、オープンキャンパスの企画運営に取り組んでいます。

本年度も7月に2回、8月に2回、夏のオープンキャンパスを開催致しました。当日は、学部長の日高艶子教授に「大学で看護を学ぶ」というご講義を頂いた後、全員で基礎看護学実習室に移動し、フィジカルアセスメント(身体診察)のスキルラボ体験や、学内のシミュレーション教材を用いたスキルラボ体験などに取り組みました。

スキルラボでは学部生が直接サポーターとなり、高校生の体験を支援させて頂きました。

本年度の夏のオープンキャンパスには、およそ182名の高校生、93名の保護者の方にご参加を頂きました。参加後の感想として、「大学に入つてこのようことを学ぶのが、非常に良かった」「大学生の先輩が優しく指導して下さいました」「初めてのオープンキャンパスでしたが、とても楽しく、聖マリア学院大学の魅力が良く伝わった」など貴重なご意見を沢山頂きました。今後も楽しく学び、本学の魅力が伝わる企画になるように準備を進め、高校生・ご家族の皆様のご参加をお待ちしたいと思います。学部生の皆様も、未来の後輩との交流および運営へのご協力を、今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



令和5年度公開講座

令和5年度聖マリア学院大学公開講座  
——よりよく生きる 地球環境とわたしたちの暮らし——

聖マリア学院大学 地域貢献センター 小浜さつき

まず、令和6年元日に発生した能登半島地震により、被害に遭われた皆さまへ心よりお見舞いを申し上げます。被災地域の皆様の日も早いご復興をお祈りいたします。

さて、本年、令和5年度の聖マリア学院大学の公開講座は、「よりよく生きる—地球環境とわたしたちの暮らし—」をテーマに、全5回の講座を開催いたしました。本学が位置する久留米市においても、近年豪雨による水害や酷暑が続いており、地球環境問題は、私たちの健康と安全にかかわる重大な問題であること、また年々課題が深刻化していることを実感しています。本年は、全5回で延べ183名の皆様にご参加いただき、地球環境と健康について学び討議する貴重な機会となりました。今回は、第1回の講座についてご紹介させて頂きます。

令和5年9月9日(土)に開催された「東日本大震災での経験—第五荒神丸誕生までの道のり—」の講座では、講師として宮城県南三陸町より、第五荒神丸船主の遠藤彦様、遠藤くみ様にお越し頂き、震災時の状況、震災後から現在に至る南三陸町の復興の様子や課題をお話頂きました。

遠藤様と本学のつながりは、2012年3月、東日本大震災の発生から1年後に、本学学生がカトリックセンターの支援により、南三陸町のボランティア活動に伺った時に遡ります。当時、組合長として南三陸町の漁業の復興に関わる活動されていた遠藤様にお会いしたことがきっかけで、以後12年に渡り、毎年春に三陸ワカメを購入させて頂いており

ます。今回、初めて福岡にお越し頂くことが叶い、東日本大震災被災当時の状況や復興に至る活動の経験、現在の南三陸町の様子を詳しく教えて頂くことができました。講話の中では、地震直後の様子や津波が到達した当時の体験を非常にリアルに伝えて頂きました。また、遠藤様が現在に至るまでに、多くの困難に直面しながらも、南三陸の豊かな自然の恵みに感謝し、自然と共に、信念を持って暮らしを培って来られたことを学びました。

また、防災という視点では、いざというときに速やかに安全な場所に避難が出来るよう、日々、他人事ではなく、自分の問題として災害の備えを行うことの重要性を学ぶことが出来ました。現在、南三陸町も地球温暖化の影響により、海産物の収穫状況に影響が出ていることなど、地球環境の変化も、人々の暮らしや震災からの復興に大きな影響を与えていることを学びました。

本年、元日に起こった能登半島の大きな地震災害のニュースは、「災害はいつどこで起こってもおかしくない」というお話を思い起こすこととなりました。聖マリア学院大学の地域貢献センターでは、災害や戦争、環境問題が深刻化する中で、次年度も引き続き被災された方、困難な状況にある方に常に関心を向け、活動を継続して参りたいと考えております。また、次年度も地域の皆様の健康やよりよく生きることにつながる公開講座を企画・運営して参りたいと考えております。今後ともご支援を賜ります様、よろしくお祈り致します。

令和5年度 科学研究費助成事業 採択者一覧

本学では、教育への還元を前提とした各専門領域における学術研究推進方策の一環として外部研究資金の獲得を推奨しているところ  
です。令和5年度の外部研究費(科学研究費助成事業)に関する採択状況については下記のとおりです。

○研究代表(13件)

研究種目	研究課題名	代表者名
基盤研究C	高度実践看護師の心不全患者に対する健康信念モデルの視点から見た患者教育の特徴	有働由樹
基盤研究C	基礎看護学教育課程で求められるレジリエンス教育に関する基礎的研究	乾美由紀
基盤研究C	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	眞崎直子
基盤研究C	男性不妊外来における当事者への心理的支援プログラムの構築	井口亜由
基盤研究C	高齢者の介護購買力が家族介護者の仕事と生活に与える影響	本田歩美
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	石本祥子
基盤研究C	ウガンダ難民定住地における女性を対象とした暴力の実態調査	秦野環
基盤研究C	若年女性の妊孕性に関する意思決定支援に向けた看護基礎教育プログラムの開発	桃井雅子
若手研究	DMD患者の家族のSOCを育む家族支援ガイドラインの開発	山口智治
若手研究B	介護老人福祉施設におけるPDアプローチによる感染対策効果の検討	洪江暁春
研究活動スタート支援	テーラーメイドの高血压患者教育プログラム構築に向けた予備的研究	長友奈央
研究活動スタート支援	地域で暮らす統合失調症者のコロナ禍における福祉就労支援体制基盤づくりに関する研究	倉成由美
研究活動スタート支援	男性不妊当事者の求める心理的支援の実態—心理的支援体制の構築を目指して—	井口亜由

○研究分担(14件)

研究種目	研究課題名	分担者名
基盤研究B	エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発	日高艶子
基盤研究B	特別な支援を要する看護学生への教育力育成プログラムの開発	日高艶子
基盤研究B	実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究B	長年に渡る戦争による反復的Trauma体験が後年の心身に及ぼす影響に関する調査	秦野環
基盤研究C	高度実践看護師の心不全患者に対する健康信念モデルの視点から見た患者教育の特徴	日高艶子
基盤研究C	高度実践看護師の心不全患者に対する健康信念モデルの視点から見た患者教育の特徴	小浜さつき
基盤研究C	就労している2型糖尿病患者のリハビリ経験を活用した看護支援方法の開発	堤千代
基盤研究C	退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発	眞崎直子
基盤研究C	都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究	田中貴子
基盤研究C	男性不妊外来における当事者への心理的支援プログラムの構築	桃井雅子
基盤研究C	介護職員として働きながら親を介護している多重介護者のストレスマネジメントの実際	本田歩美
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	日高艶子
基盤研究C	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	小浜さつき
基盤研究C	看護学生の自己調整学習の特徴—「自ら学ぶ力」を育成する方略の探索—	鶴田明美

修学支援制度

本学大学院に現役進学する4年生の方への奨学金案内です

[受給資格] 3年生までの必修科目GPAが3.0以上、  
もしくは卒業時までの必修科目GPAが3.0以上の者。

[支給金額] 年間授業料の半額

[支給期間] 修業年限(通常2年間)

学納金	区分	入学時納入金*	後期納入金	次年度以降納入金(年額)
本学出身者 通常	入学金	—	—	—
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	525,000円	1,050,000円
奨学金 適用後	入学金	—	—	—
	授業料	425,000円	—	425,000円
	施設設備費	100,000円	100,000円	200,000円
	合計	525,000円	100,000円	625,000円

\*本学出身者は入学金が免除となります。

お問い合わせ先 / 聖マリア学院大学 入試事務室 TEL 0942-35-7271 (代表)



修学支援制度

新入生向け 聖マリア学院大学特待奨学金案内です

[対象者] 当該年度の一般選抜(前期)を受験し、**優秀な成績を修めた者。**

[採用候補者数] 10名程度

[給付金額・期間] 給付金額:年間20万円 / 給付期間:4年間 **計80万円**

[給付方法] 後期授業料より減免

入学後の成績が優秀な場合は、在学生向けの特待奨学金と重複受給することができます(半期授業料および実験実習費相当額、または半期授業料および実験実習費相当額の半額:1年間)。

●1年次に優秀な学内成績を収めた場合(首席)の支給(免除)金額例:  
20万円(新入生特待)+67万円(在学生特待)=87万円

※上記金額例は、令和6年度入学生より

※学校推薦型選抜等で合格し入学手続きを完了している場合は、一般選抜(前期)を受験しても対象とはなりません。  
※採用候補者には合格通知に関係書類を同封します。 ※特待奨学生に相応しくないと判断される事由が生じたときは、資格を喪失し、奨学金の返還を求められることがあります。

お問い合わせ先 / 聖マリア学院大学 入試事務室 TEL 0942-35-7271 (代表)



# 皆様からのご支援、ありがとうございます

## ～寄付金受入のご報告と御礼～



聖マリア学院大学では公教育を担う看護大学として、広く皆様方からのご支援を頂きながら、大学の運営を行っております。これまで、図書館棟新築工事等の節目事業、また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への経済的支援事業等に際し、寄付金を有効に活用させていただきました。

引き続き、皆様方のご支援をお願い申し上げますとともに、これまでのご厚情に対し、改めて感謝の意を表し、寄付者ご芳名を掲出させていただきます。

1973(昭和48)年、聖マリア高等看護学院の開校以来、50年の伝統あるミッションスクールとして「カトリックの愛の精神」を基調に、これからも一人ひとりの人格と看護実践者としての成熟を目指した教育に努めて参ります。  
 <2008年(平成20年)3月～2023年(令和5年)7月 寄付受入分>

個人様 (敬称略、順不同 / 在学生ご家族、同窓生、役員、教職員他)									
赤星由美子	浅野由美子	阿南良子	鮎川恵子	荒巻初子	有吉浩美	家入留美子	石井千代	石橋喜子	
石本直子	石丸良恵	井手三郎	井手信	井原明美	井原伽奈子	今田登代子	入部久子	碓井知美	
宇山由里子	浦美穂子	江口須賀子	江越美穂	大石利香	大楠綾子	大津山彩	大野千代美	大谷文女	
小浜さつき	片山慶子	勝木志保子	加納由美	河上裕美	河口喜代美	川崎和子	河田淳子	川崎育子	
川原洋子	川村千鶴	北川英治	木下まさみ	草野圭子	草柳美雪	櫛間睦子	神代明美	神代実穂	
神代由利子	倉八ひとみ	栗山由美子	古賀ヒロミ	古賀由紀	古賀るみ子	後藤薫	小西逸代	近藤由紀	
坂口由美	坂本由貴	佐野美和子	猿渡とも子	澤田美紀	重留万希子	志津志帆	柴戸美奈	柴崎祥子	
柴田公子	下川一江	下川紀子	下宮夕香	城後鈴美	白土由美子	末吉良美	杉山秀彦	鈴木良子	
駿河崎房子	世登亜貴奈	外本こずえ	高倉幸子	竹原明子	田崎美穂子	田中千恵美	田中道代	田中洋子	
近末清美	尋木彦次	鶴田明美	東郷麻衣子	中川武子	中小田千鶴子	中島成子	中島千壽子	中島由希	
長友奈央	中野秀子	中ノ森美知子	中山和道	永松雄一郎	中村京子	綿島悟子	西坂美佐	西村弘子	
西山かおり	布村美江	野上幸子	野上裕子	野田利子	野田豊美	橋口ちどり	橋本ふさ代	橋本陽子	
花田千秋	馬場絹代	馬場智子	濱崎佐智恵	浜崎みと子	原田加代子	原田芳枝	原楨しづか	日高艶子	
平田和美	広下智絵	福永仁美	福元洋子	福山雅子	藤木万莉	本淨尋子	牧山幸二	前本武徳	
松尾真美	松尾美香	松隈千代美	松原富士子	松村ひろの	松本昌子	溝口恵美	三河さやか	三苫香代子	
蓑田ヒロミ	宮崎務	宮崎百合子	村岡健次	本松芳子	桃井雅子	守涼子	森山百合子	安岡智美	
柳本朋子	山内しげ子	山岸寿子	山下美幸	山田佐恵美	山田牧子	山口智恵子	山口文子	矢野正子	
湯川武	吉富久美子	龍聖子	涌井幸江	渡邊千代子	令和2年度卒業生有志	同窓会有志	他・匿名		

個人様からの寄付金受入れ総額 **25,259,520円** (2008.3～2023.7累計)

法人様 (敬称略、順不同 / 地場企業、関係諸機関・団体等)			
株式会社アド福岡	株式会社九州AV	株式会社九州神陵文庫	株式会社九州総合ユニフォーム
九州ビルサービス株式会社	廣告社株式会社福岡支社	秀栄建設株式会社	新生ビルメンテナンス株式会社
株式会社スギヤマ	第一警備保障株式会社久留米支社	株式会社筑邦銀行	戸田建設株式会社九州支店
株式会社成田美装センター	株式会社西日本企画サービス	日商保険コンサルティング株式会社	橋本事務機株式会社
福岡医療関連協業組合	富士ゼロックス福岡株式会社	社会医療法人雪の聖母会(聖マリア病院)	他・匿名

法人様からの寄付金受入れ総額 **26,450,000円** (2008.3～2023.7累計)

寄付金に関するご照会・お申込

聖マリア学院大学 募金事務局

〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422 TEL 0942-35-7271 (代表)

## 学校法人聖マリア学院 令和4年度決算

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類及び事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会・評議員会での承認を経て、財務状況並びに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。



### 学校法人聖マリア学院 令和4年度決算〔令和4年4月1日～令和5年3月31日〕

「貸借対照表」の概要			
貸借対照表 令和5年3月31日現在(単位:千円)			
<b>資産の部</b>			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	4,229,556	4,479,027	△ 249,472
流動資産	2,447,914	2,154,795	293,119
資産の部合計	<b>6,677,470</b>	<b>6,633,822</b>	<b>43,647</b>
<b>負債の部</b>			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	237,841	234,824	3,018
流動負債	187,030	184,498	2,532
負債の部合計	<b>424,872</b>	<b>419,322</b>	<b>5,550</b>
<b>純資産の部</b>			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	6,267,547	6,406,873	△ 139,326
第1号基本金	5,954,347	6,093,673	△ 139,326
第2号基本金	140,000	140,000	0
第3号基本金	101,200	101,200	0
第4号基本金	72,000	72,000	0
繰越収支差額	△ 14,949	△ 192,373	177,424
純資産の部合計	<b>6,252,598</b>	<b>6,214,501</b>	<b>38,098</b>
負債及び純資産の部合計	<b>6,677,470</b>	<b>6,633,822</b>	<b>43,647</b>

「事業活動収支計算書」の概要			
事業活動収支計算書 (単位:千円)			
<b>収入の部</b>		<b>支出の部</b>	
科目	決算額	科目	決算額
教育活動収入	965,362	教育活動支出	922,238
教育活動外収入	5,928	教育活動外支出	0
特別収入	5,028	特別支出	15,982
		予備費	-----
事業活動収入	976,318	事業活動支出	<b>938,221</b>
		基本金組入前当年度収支差額	38,098
		基本金組入額合計	0
		当年度収支差額	38,098
		前年度繰越収支差額	△ 192,373
		基本金取崩額	139,326
		翌年度繰越収支差額	△ 14,949

「資金収支計算書」の概要			
資金収支計算書 (単位:千円)			
<b>収入の部</b>		<b>支出の部</b>	
科目	決算額	科目	決算額
学生納付金収入	744,387	人件費支出	553,016
手数料収入	9,991	教育研究経費支出	197,983
寄付金収入	29,250	管理経費支出	47,855
補助金収入	150,569	施設関係支出	1,210
資産売却収入	120,000	設備関係支出	10,671
付随事業・収益事業収入	2,364	資産運用支出	1,800
受取利息・配当金収入	5,928	その他の支出	33,785
雑収入	28,233		
前受金収入	130,855	予備費	-----
その他の収入	42,362		
資金収入調整勘定	△ 165,890	資金支出調整勘定	△ 33,629
前年度繰越支払資金	2,147,379	翌年度繰越支払資金	2,432,738
収入の部合計	<b>3,245,429</b>	支出の部合計	<b>3,245,429</b>

※作表上、端数調整箇所あり。 ※財務状況については、大学のホームページ(https://www.st-mary.ac.jp/disclosure/)でも公開中。



## 教務課・学生課からのお知らせ

### 在学生、並びにご家族のみなさまへ

#### ■ 教務課からの各種お知らせについて

在学生並びにご家族の方に対し、単位認定試験の結果(再試験対象となる科目の有無)、成績通知書等をお届けしております。学生の皆さんにとっては既に周知の内容もあるかと思いますが、ご家族の皆さまにとりましても、大学生活や学修に関する情報を共有するものとして活用いただければ幸いです。

#### ■ 「保健師」国家試験受験について (保健師コースの履修について)

本学では「選択制」となっております。保健師国家試験の受験資格を得るためには、看護学部卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される「公衆衛生看護学」に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。保健師コース履修を希望する場合は、2年次後期に申込み手続きを行い、学内選考により履修者を決定します。なお、保健師コース履修には、課程履修費として、別途80,000円が必要になります(平成29年度履修者より適用)。

#### ■ 大学での履修について

科目の履修に際しては、特定の科目については履修要件があることや(※)、上級学年に進級するための要件(進級要件)があること、卒業までに要する科目や単位数(卒業要件)が定められていることなど、予め知っておくべき重要な事項があります。これらは、年度始めに配布する「履修の手引き」に明記されていますので、学生の皆さんは、履修ガイダンスに参加することはもちろんですが、自ら履修に関する情報を収集し、把握するように努めることも必要です。また、カリキュラム改正等に伴い、履修に関する諸規程も改正となることがあります。入学年度によって適用する規程が異なることがありますので、不明な点が生じた場合は教務課へお尋ねください。【※:主として、基盤臨床系科目や各論実習科目を履修するためには、各々の科目の履修要件(例:科目Bを履修するためには科目Aの試験に合格していることが必要)などを満たす必要があります。】



### 本学の奨学金制度について

詳細につきましては学生課までお問い合わせください。

☎0942-50-0222

#### 特待奨学金

金額:半期授業料または半期授業料の半額  
(令和4年度より)  
返還義務:なし 採用人数:若干名

#### 子弟等奨学金

金額:入学金相当額の半額  
返還義務:なし

#### 緊急時奨学金

金額:当該学期の学納金相当額を上限  
返還義務なし 採用人数:若干名

#### 雪の聖母会聖マリア病院 聖マリア奨学金

金額:年間の授業料相当額を上限  
返還義務:卒業時に一括返還※  
貸与期間:修業年間を上限 採用人数:若干名

※聖マリア病院へ就職した場合は、給与より返還

#### 編集後記

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行となり、コロナ前の日常が戻ってきました。

本学においては、対面による講義や実習・学校行事を再開することができ、医療従事者を目指す学生の皆さんは気を緩めることなく日々感染対策を行っていました。

生活スタイルや環境が大きく変化することに戸惑いを感じながらも、柔軟に対応する学生の皆さんの姿には大変感銘を受けました。近年の移り変わりが激しい時代を過ごす上で、求められる柔軟性の必要さを勝手ながら学ばせていただきました。

1年間の学生生活の様子を広報部による撮影を行いました。振り返ると皆さんの豊かな表情が映し出されており、これからの日常を過ごせることを心より祈ります。

1年間、MADONNA広報誌をはじめ、広報活動に関する取材や撮影にご協力いただいた皆さまへ、改めて感謝いたします。

